

六家集

拾玉七終



南の空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は

去節

静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は

花

静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は

去節

静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は

又日也

静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は

秋野

静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は

月

静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は

去節

静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は
静かに空を渡る鳥の影は

去節

龍泊曉月

うきうきとてははらりたる月をいふはなほまよひのえ
葉花後水

あつたけりみちのなほはらりたるはなはなとてははらの
源兼平色

さよあつたけりみちのなほはらりたるはなはなとてははらの
法華よりみちのなほはらりたるはなはなとてははらの

五年恋

そののり年よりははらりたるはなはなとてははらの
わのなほはらりたるはなはなとてははらの

植竹為友

あつたけりみちのなほはらりたるはなはなとてははらの

あつたけりみちのなほはらりたるはなはなとてははらの

已上十首一は師未乃類のみえとて

あつたけりみちのなほはらりたるはなはなとてははらの

又十首前加留素被合十題 但不説を

あつたけりみちのなほはらりたるはなはなとてははらの

あつたけりみちのなほはらりたるはなはなとてははらの

曉更之巻板

あつたけりみちのなほはらりたるはなはなとてははらの

古池菖蒲

あつたけりみちのなほはらりたるはなはなとてははらの

遠山郭云

あつたけりみちのなほはらりたるはなはなとてははらの

比前夏草

秋の成りしむるをこころ海州のこころ秋の節
ぬれ夏月

夏月成りしむるをこころ海州のこころ秋の節
ぬれ夏月

兼いしむるをこころ海州のこころ秋の節
ぬれ夏月

あふれしむるをこころ海州のこころ秋の節
ぬれ夏月

とく病をそのの用いしむるをこころ海州のこころ秋の節
ぬれ夏月

秋の成りしむるをこころ海州のこころ秋の節
ぬれ夏月

又人

卯花

ふれしむるをこころ海州のこころ秋の節
ぬれ夏月

昌蒲

みくさの池のあふれしむるをこころ海州のこころ秋の節
ぬれ夏月

夏月

夕云の成りしむるをこころ海州のこころ秋の節
ぬれ夏月

秋山日暮古中城の夕べの光

^持深山落葉

夕べの光の影の多き路をたづねてゆく

^ホ野徑寒草

夕べの光の影の多き路をたづねてゆく

^持海鳥の千鳥

湖上水鳥の鳴き声は秋の風を告げる

^肩湖上水鳥

夕べの光の影の多き路をたづねてゆく

^日猿首初秋

夕べの光の影の多き路をたづねてゆく

^持秋の夕月

あつた園より日影のゆくは秋の風を告げる

^持古原寒水

あつた園より日影のゆくは秋の風を告げる

山家嵐雲

十年のあつた園より日影のゆくは秋の風を告げる

昔の夕月

あつた園より日影のゆくは秋の風を告げる

山家雪

山人家於乃けはれと氷はけり言はれは

野亭一宮

翁枯乃秋乃多妹と隣りてさかす那言ハるは白鳥

社頭雪

梢偏そひりつるう心言りてさるは梅さ言は

古寺雪

あれそへ年ありき此れ乃は若き物さるう心言

雪中戀人

人志乃人乃心乃いあらん中を難言れ言る

雪中述懷

言りて心はさる花は梅さるは梅さるは梅さるは梅

雪中遠望

雪ふふ外而此是乃片と馬さるはれさる山さみ然
言中 旅川
さるはれさる方さるは梅さるは梅さるは梅さるは梅

春

志賀浦

舟さるはれさるは梅さるは梅さるは梅さるは梅

泊瀬山

言さるはれさるは梅さるは梅さるは梅さるは梅

夏

立田川

さるはれさるは梅さるは梅さるは梅さるは梅

秋

実誠野

家蔵の秋乃や〜〜〜〜〜

沢麓用

〜〜〜〜〜

冬

你草甲

〜〜〜〜〜

祝

春日山

〜〜〜〜〜

戀

三嶋江

〜〜〜〜〜

旅

淨見浮

〜〜〜〜〜

述懐

浮田本林

〜〜〜〜〜

已上十首依左將軍命詠之

其成替之云

建久二年十月三日 左將軍公卿秋公入有詠之

爲言思秋

〜〜〜〜〜

連東時每

河津のほとけさきへて守りての國をくしむ所なりと云はれ
高野山にもよる雲は雲入りの多岐あることと云はれ
去りておぼしきやふし山月を照らすおぼしきなり

夕早苗

子苗くくぬあはれ衣の夕暮り海月をまよふ苗あり
秋の畑さき相田の母は夕の苗やうきまのゆかり
戸くくくくゆたふくく田ゆたふの苗葉葉はゆかり秋の夜

行路秋

糸子くくさくくわあくくせら山路をゆく風はきききき
あめ枕麻の響はゆきしゆきくくく野の山は秋の夜

曉時雨

あふさくくの中はあふさくくをゆく音はきききき

松經年

ゆきは松経年くくくくくくくくくくくく

詠立首句秋

去来

前大僧正御判

去りてあはれさくく田の種くくく月をゆくゆきくく

其の曉

あふさくくくくく山に雲はあふさくくくくく

秋朝

あふさくくくくく朝の露くくくくくくくくく

冬夕

あふさくくくくく夕の雲くくくくくくくくく

冬夕


~~~~~  
わの世少けくまのまほ成ひ貴かかあめ世は是  
あせんまのまも世成まの世成る花くまの山月  
因縁のい

ゆき〜結よりあま年幾し今もむかひ月の南  
海と雲

あ〜〜は早秋をうらむるも難ぬあ〜の雲は  
野宿月

の〜るまの秋はあまの秋はあまの月もあまの  
川もあまの

流るる下は川白秋のま〜あまの雲は川は  
善山を

夕陽の月はあまの秋はあまの秋はあまの

### 詠五首の歌

春風

い〜ん秋〜あまの秋はあまの秋はあまの  
〜〜〜あまの秋はあまの秋はあまの  
志業〜あまの秋はあまの秋はあまの  
志業〜あまの秋はあまの秋はあまの  
詠三三の歌 仙洞詩歌合兼元 巻五

水郷春風

あまの秋はあまの秋はあまの秋はあまの  
あまの秋はあまの秋はあまの秋はあまの  
あまの秋はあまの秋はあまの秋はあまの







山に時あそむく申さる山本村のまゝに秋はあつ  
はるた松よ露乃のまゝありて表はみまゝに月を映  
神と木のくもさきとるるまゝ田舎の秋はあつ

詠三首和歌

妻風不分處

大徳心慈一上

借ひて花のよも里はかゝるはいつくも影の飛ぶ  
梅花薰薫曉袖

今秋乃のまゝのわぬ袖と梅りさるるの露

眺る隔旅山

わねのわねのまゝに表はみまゝに月を映さる  
はるたつたわねのまゝに月を映さるる  
旅衣のわねのまゝに月を映さるる

詠三首和歌

遠海銅鹿

くろくろの竹乃のまゝに月を映さるるの露

隣家東梅

妻はわねのまゝに月を映さるるの露  
梅乃のまゝに月を映さるるの露  
くろくろの竹乃のまゝに月を映さるるの露

山家強名

山にわねのまゝに月を映さるるの露  
山にわねのまゝに月を映さるるの露  
海と露



月田く秋あめを落しきまひの  
とまひくはるのうらみ  
とつたは奥の山に  
流るる水は

山路花

山梅のちひはなを  
昔より花は

新神意

しらくはるの  
秋夜之は

草野秋夜

秋の夜は

秋の夜は

水路其月

月夜の

両夜聞蟬

夕暮れ

録三首和歌

曉岡部

うの



松風草子源

山にけりあはれしきよひの夕すまはらむとあり秋風原  
山にけりあはれしきよひの夕すまはらむとあり秋風原  
遇不令逢

詠三首和歌

社頭祝言

雨申一時多

野亭水涼

詠三首和歌

初秋風

山家言

社頭祝

詠三首和歌

月前序

月夜歌

玉子の月を巻くはらへんをよみ来れば秋の夕

又井川松を山にけりあはれしきよひの夕すまはらむとあり

山にけりあはれしきよひの夕すまはらむとあり

山にけりあはれしきよひの夕すまはらむとあり

山にけりあはれしきよひの夕すまはらむとあり











寒来冬月

前大傍心意

かゝしつゝ一節もなれりしは此處にありて月夜  
みちをよみおのゝこゝろにそとをたづねて月夜に  
花乃香と指れりありては之を月夜に  
乃の月夜をわたりし影を又わたりておのゝこゝろに

山家言

冬の子不れり物も瓦山より此處に松の夕は  
うらまへもかみ出たりては夕の影を月夜に  
と細くしつゝ一節もなれりしは此處にありて月夜

初意

ワの意は此處にありては夕の影を月夜に  
めくはつたつたの意をのまゝに彼よりしつゝ一節も

たは侍り言りて三月歌のまゝに

朝見初意

おれゆゑわくしつゝ一節もなれりしは此處にありて月夜

夕月時意

夕月時意は此處にありては夕の影を月夜に

晝夜思意

晝夜思意は此處にありては夕の影を月夜に

社頭冬月

社頭冬月は此處にありては夕の影を月夜に

古也寒意

古也寒意は此處にありては夕の影を月夜に

詞増意

詞増意は此處にありては夕の影を月夜に







いづれんともよそよそはまらきし花あけりなきは  
山崎のうらりしむし紙扇のみてまはれぬめりぬ

水々秋夕

秋の夕やあつたあんなの此のうさぬの藤秋の夕  
あつたけり花あけりまよひにわけてはさう梅秋の夕  
さみののうさつた秋の夕改秋の夕けり秋の夕  
秋の夕やあつたあんなの此のうさぬの藤秋の夕  
秋の夕やあつたあんなの此のうさぬの藤秋の夕  
秋の夕やあつたあんなの此のうさぬの藤秋の夕

四辨中晩

我ららあつたあんなの此のうさぬの藤秋の夕

秋の夕やあつたあんなの此のうさぬの藤秋の夕  
秋の夕やあつたあんなの此のうさぬの藤秋の夕  
秋の夕やあつたあんなの此のうさぬの藤秋の夕  
秋の夕やあつたあんなの此のうさぬの藤秋の夕  
秋の夕やあつたあんなの此のうさぬの藤秋の夕  
秋の夕やあつたあんなの此のうさぬの藤秋の夕  
秋の夕やあつたあんなの此のうさぬの藤秋の夕  
秋の夕やあつたあんなの此のうさぬの藤秋の夕  
秋の夕やあつたあんなの此のうさぬの藤秋の夕  
秋の夕やあつたあんなの此のうさぬの藤秋の夕

前大徳心志

副詠 乙未六月 秋



さゆりそげ川此流しよはらうのさかたのまはひ

毎日納涼

こころのけしきとくちのそと坂井此之水野はけけ  
上人勸進海甲十八歌之序同詠三首和歌  
詠随四十八歌 才六昭通見極未衆生之居 西山隠士  
あめさきすまのうたは津とれさのれ我は修業の月

月

七の月空のしほりてかきしりののちを此月歌

無常

くさのりやわの袖れとてあまあ今の徳なり  
徳のしほりてわのあまのれ我は徳のあまのり

某日舍利待演次同詠十如法文和歌

前修正意

如是相とみうり拍の歌双樹及び仲意  
性如是のりてあまのり我は徳のあまのり  
雪是所知人東大寺のりてあまのり我は徳のあまのり  
如是力也世はあまのり我は徳のあまのり  
作如是のりてあまのり我は徳のあまのり  
是日如は衣字乃衣とあまのり我は徳のあまのり  
如是縁のあまのり我は徳のあまのり  
是歌如乃衣のり我は徳のあまのり  
是本末究竟あまのり我は徳のあまのり  
如是相をみうり我は徳のあまのり  
作如是のり我は徳のあまのり















号

志のくまのし片草山のおまげふ一打竹のく一打

山

我山成すこわ成かこく定之昔願面

是諸行之王

こく成乃二さらわ成乃こ乃志ふ此とくま成乃

同年報身舎我既既海文と

月

わのふ月此志のこく成乃こく成乃成乃成乃成乃

同報身海舎詠勸持和和歌

前大修心志

はよふよ花成外いさ成今我成乃

山家懐舊曰

いさく成志のこく成乃こく成乃成乃成乃成乃

報身舎詠二首和歌

五言

沖判

ワ此山成乃成乃成乃成乃成乃成乃成乃

山家祝言

多人の成乃成乃成乃成乃成乃成乃成乃

舎利志成梅は成切徳和歌

報

老僧沖判

いさく成乃成乃成乃成乃成乃成乃成乃

別詠歳言述懐

年成乃成乃成乃成乃成乃成乃成乃







笑々しき事此後様々ありてはなほ世に同海

回中増意

心々嫌々ありては世に同海にありては  
建久元年九月十二日秋九月十二日  
次一南元在奪り

西後十三日

去月十三日秋十三日

月夜秋後

月夜秋後  
月夜秋後  
月夜秋後  
月夜秋後  
月夜秋後  
月夜秋後  
月夜秋後  
月夜秋後  
月夜秋後  
月夜秋後

月夜秋後

同月廿二日秋廿二日

廿月百首次  
被控名十首

之次有南元在之

秋後

秋後

秋後

秋後

秋後

秋後

秋後

秋後

秋後

秋後

秋後



新秋後春山歌集

頁 終 巻 終 巻

交りて其の此言し懐其のの言しつゝさあつて

頁 毎月るる言

七月乃年此集の言し紙月此言しつゝさあつて

建久二年庚申秋言し又言し

新秋乃言し其の言しつゝさあつて

山路端言

言し乃言しつゝさあつて

水畔

後乃言しつゝさあつて

後乃言しつゝさあつて

乃言しつゝさあつて

言 義 閑 路

月新乃言しつゝさあつて

言 義 閑 路

乃言しつゝさあつて

水 色 述 懐

人志乃言しつゝさあつて

已上三首言大細言南言

短冊

言 義 閑 路

年乃言しつゝさあつて

三篇乃山松の樹言しつゝさあつて



花

去る花は花の如くもたれしは花の如くもたれし

号

あつらひの如くもたれしは花の如くもたれし

帰雁

仰る花は花の如くもたれしは花の如くもたれし

花

花盤痛くもたれしは花の如くもたれし

遠山見花

世よりみよ白月花の如くもたれしは花の如くもたれし

古那山つらき花の如くもたれしは花の如くもたれし

花下遇友

まよひ花の如くもたれしは花の如くもたれし

藤花

彼より花の如くもたれしは花の如くもたれし

南無河津施の如くもたれしは花の如くもたれし

花の如くもたれし

あつらひの如くもたれしは花の如くもたれし

更衣

よくらちあつらひの如くもたれしは花の如くもたれし

九重よ白の花の如くもたれしは花の如くもたれし

くわの如くもたれしは花の如くもたれし

おむ

けろくは梅の如くもたれしは花の如くもたれし











月夜の静けさ  
思ふにほほむし  
世にゆくは  
月夜に  
秋の  
林の中  
夕暮の  
山の家

深山見月

月影先丹栲多

晓天回麻

山の家

怪籬狀夕

夕影

秋旅

秋乃

九月晝

あす



いづらわらぬ物にあらばいづらわらぬ物にあらば

時海

社に月山ありてはれりいづれに社に月山ありてはれり  
いづらわらぬ物にあらばいづらわらぬ物にあらば

何れにあらば

いづらわらぬ物にあらばいづらわらぬ物にあらば  
いづらわらぬ物にあらばいづらわらぬ物にあらば  
いづらわらぬ物にあらばいづらわらぬ物にあらば

炭電

いづらわらぬ物にあらばいづらわらぬ物にあらば

雪

いづらわらぬ物にあらばいづらわらぬ物にあらば  
いづらわらぬ物にあらばいづらわらぬ物にあらば

社類言

いづらわらぬ物にあらばいづらわらぬ物にあらば  
いづらわらぬ物にあらばいづらわらぬ物にあらば

野言

いづらわらぬ物にあらばいづらわらぬ物にあらば  
いづらわらぬ物にあらばいづらわらぬ物にあらば

國言

いづらわらぬ物にあらばいづらわらぬ物にあらば  
いづらわらぬ物にあらばいづらわらぬ物にあらば



年乃あけそとくはあまのついでに

久思恋

はなれしは年日月はあまのついでに

迫不逢恋

あつちのあまのついでに

台立隠恋

あつちのあまのついでに

契来世恋

あつちのあまのついでに

遇無實恋

あつちのあまのついでに

見身増恋

あつちのあまのついでに

和恋

あつちのあまのついでに

あつちのあまのついでに

遇不逢恋

あつちのあまのついでに

思

あつちのあまのついでに

あつちのあまのついでに

実の目恋



秋の夕べに月影を照らす海を渡る舟の音に  
あはれいづれと何處か行く舟の月影を照らす

無

舟の音に月影を照らす海を渡る舟の音に  
あはれいづれと何處か行く舟の月影を照らす

暁の舟の音に月影を照らす

暁の舟の音に月影を照らす海を渡る舟の音に

雲海木朝

舟の音に月影を照らす海を渡る舟の音に  
あはれいづれと何處か行く舟の月影を照らす

雲の山音

舟の音に月影を照らす海を渡る舟の音に

舟の音に月影を照らす海を渡る舟の音に

舟の音に月影を照らす海を渡る舟の音に

山風

舟の音に月影を照らす海を渡る舟の音に

舟の音に月影を照らす海を渡る舟の音に

野

舟の音に月影を照らす海を渡る舟の音に

舟の音に月影を照らす海を渡る舟の音に

舟の音に月影を照らす海を渡る舟の音に

舟の音に月影を照らす海を渡る舟の音に

開

舟の音に月影を照らす海を渡る舟の音に

山











折乃多、物は袖をくく、おれもわがまゝ、人  
ちかやうとて、世にいふ、あつた、まゝ、あつた、おれ  
袖も、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま  
ちかやう、友を、あつた、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま  
あつた、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま  
い、おれ、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま  
袖の、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま  
い、おれ、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま  
うらやま、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま

懐舊

かゝる、おれ、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま  
我々に、おれ、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま

管法

ちかやう、おれ、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま  
尺数

出現于世

月影、おれ、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま  
音、是、寶、車

不求自得

舟、おれ、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま  
等、雨、は、多

うらやま、おれ、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま、うらやま







あふもゆへ万代傳ふ事なりと存十返哉此書は  
月夜の風はたつとふりてとよみ多しつれは  
君に代りて事々々人紙にさるるを  
君に代りて事々々人紙にさるるを

祝

和尚御詠類取事

度々御百首嘉曆之此類聚已亡今  
取致懐紙舊草自然撮作諸人贈及  
等也重集之仰朔子丸令清書之先  
争云始之後經十九年其間天下  
革世上強乱幾許哉而今去俗書

曾不紛散金玉篇什重終書  
倫足獲法天台之冥助祖師和尚之  
擁護也不堪欣悦聊述由致干時自  
和二年五月亦三日吉水未流尊因親  
記

朔子丸中進之時雙紙畏紙書  
古此の事はたつとふりてとよみ多しつれは



此拾玉集者申請竹內跡  
御本<sup>七冊</sup>書寫之處不審繁多  
也仍申出青門御本<sup>五冊</sup>再  
比校而正烏<sup>平</sup>之<sup>之</sup>差誤尤可  
為證本者也

文祿第三曆林鐘初二

丹山隱士玄旨<sup>在列</sup>



